

事業概要

亀岡市篠(しの)町には、奈良時代から平安時代にかけて、土器や瓦などを生産した窯跡が100基以上残されています。「篠窯跡群(しのかまあとぐん)」とよばれるこの遺跡では、「小型三角窯」という特殊な窯で須恵器(すえき)や、須恵器に釉薬をかけた緑釉陶器を生産していました。考古学の世界では、国の史跡に指定されるべき歴史・学術的価値をもつことで著名な篠窯跡群ですが、亀岡の人びとには、その存在があまり知られていません。

そこで、地元自治会の協力を得て、窯跡のある篠町「市民の森 長尾山」で、小型三角窯の構築と須恵器の焼成実験を行い、篠窯跡群と古代亀岡の焼き物文化を検証するためのプロジェクトを立ち上げました。

陶芸家と考古学者のコラボレーションによって実現したこのプロジェクトの目的は、学術的成果の追求だけでなく、取り組む私たち自身が、このまちの歴史と文化を私たち自身が理解して広く発信したい、という想いに根ざしています。今後は、この取組みを通して感じた篠の窯を巡る物語を、未来を担う子どもたちに伝える事業へと、つなげて行きたいと思います。

[プロジェクト・メンバー]

陶芸家／

綿引恒平 | わたひき こうへい  
こどもアトリエでつく

清水志郎 | しみず しろう  
五条坂清水

明主 航 | みょうしゅ わたる

専門家／

木立雅朗 | きだち まさあき  
立命館大学文学部教授

高橋照彦 | たかはし てるひこ  
大阪大学大学院文学研究科教授

水谷壽克 | みずたに としかつ  
亀岡市教育委員会社会教育課文化財係文化財専門員

石井清司 | いしい せいじ  
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査課総括主査

事務局／

(公財)生涯学習かめおか財団



市民の森 長尾山

